# ９［評論］『「責任」はだれにあるのか』

　二〇〇三年の六月に東京都立高校で「生徒が先生を採点」（朝日新聞六月三日付）、十一月には県の市で「教員採用に小中生が試験官」（産経新聞十一月三十日付）という新聞記事がａノりました。

　私はこれを読んで、おかしな話だとすぐに思いました。［　　１　　］、これは大人に対する人権侵害に当たるからです。子どもの人権を認めろという主張の流れのなかでおこなわれていることは明白ですが、①ここには、「人権」概念の誤解があります。人権は国家によってｂホショウされるものですが、それは、国民であることの責任を果たすこととひきかえにホショウされるのです。ですから、国民であることの責任を果たす能力をもっていないかぎり、人権をもつこともできないわけです。

　子どもには責任能力が十分にありませんから、そのぶんだけ、人権は制限されるはずです。子どもの人権というのも一種の「言い方」であって、まったく子どもに人権がないというのもｃキョクタンですが、そもそも「人権」という言葉を乱用するところに問題があります。

　子どもの生命は大人以上に尊重されなくてはならないし、きちんと育てられるべきです。［　　２　　］、子どもの生命、将来が尊重されるということを、「人権」という言葉に結びつけるのは間違いです。このように結びつけてしまうと、大人である私たちがｄコウシしている「人権」にｅ無媒介にスライドしてしまいます。

　［　　３　　］、「人権」という言葉の内容には、職業選択、結婚、居住移転、財産の所有、言論、集会結社、思想信教など、さまざまな自由権が含まれます。これらの自由権を子どもはもっていませんし、社会的に未熟な存在にその種のものをもたせるべきでもありません。

　②これらを認めてしまうと、当然、なんでもかんでも子どもに「人権」があって、大人を評価したり採否したりする権利もあるという話になってしまいます。そうすると、たとえば職業人としての大人の［　　Ａ　　］の権利を、正確な意味での人権をもたない存在が握るということになりますから、むしろこれは一種の人権侵害です。

　どうしてこんなだらしないことをするのでしょうか。最大の理由は、大人が、子どもを教育していくことに対して自信をもっていないからだと思われます。現代の教育界はたいへん混乱していて、「悪しき自由」観が支配しているために、何をどのように指導していってよいのかわからなくなっているのですね。

　教育は、複数の子どもを集めて彼らに大人がつくってきた文化を伝える営みですから、当然、管理と強制を含みます。そのためにこそ、人事の一部を子ども任せなどにするのではなく、大人がしっかりとした責任意識をもたなくてはなりません。子どもに教師の評価権や採用権を与えることは、大人への［　　Ｂ　　］であるばかりでなく、大人の責任放棄でもあると思います。

●語注

無媒介＝媒介（なかだち）を有しないこと。直接。

自由権＝国家権力の不当な干渉・強制を排除して各人の自由を確保する権利。

採否＝採用と不採用。採るか採らないかということ。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　空欄１〜３に入る最も適当な語句をそれぞれ次から選べ。4点×3

ア　たとえば　　イ　したがって　　ウ　つまり　　エ　なぜなら　　オ　しかし

１〔　　　〕　２〔　　　〕　３〔　　　〕

問２　空欄Ａに入る最も適当な四字熟語を次から選べ。7点

ア　自主自立　　イ　栄枯盛衰　　ウ　自由奔放　　エ　生殺与奪　　オ

〔　　　〕

問３　傍線部①とあるが、そうした「誤解」が生まれる理由を二〇字以内で説明せよ。10点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　傍線部②「これら」が指す内容を本文中から一〇字以内で抜き出せ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　空欄Ｂにに入る最も適当な語句を本文中から四字で抜き出せ。7点

〔　　　　　　　　〕

問６　本文の内容と合致するものを次から一つ選べ。7点

ア　子どもに物事に対する責任能力を求めるのは無理であり、人権を認めるべきではない。

イ　国民としての責任を果たす意思のない人には、国家は人権をホショウしてはいけない。

ウ　教師の能力を生徒に評価させるという発想の根底には、「悪しき自由」観がある。

エ　「自主性尊重」の美名の下、管理と強制を否定する教育は、子どもに悪影響を及ぼす。

オ　子どもの生命は大人以上に大切にされるべきであり、それは子どもにとっての人権である。

〔　　　〕

【解答】

漢字　ａ載（る）　ｂ保障　ｃ極端　ｄ行使　ｅむばいかい

問１　1＝エ　2＝オ　3＝ア

問２　エ

問３　大人が子どもの教育に自信をもてないから。（20字）

問４　さまざまな自由権（8字）

問５　人権侵害

問６　ウ

■覚えておきたい語句

□19　〜が（を）握る………情報などを自分のものにする。

〔要　約〕

結論の［8］段落に、

筆者の見解を述べた［2］段落、

結論の背景を説明した［7］段落

の内容を補ってまとめる。

　　　　↓

子どもに教師の評価権や採用権を与えることは、「人権」概念の誤解による、大人への人権侵害であるだけでなく大人の責任放棄でもある。その背景には、大人が子どもの教育に自信が持てない現代の教育界の混乱がある。（100字）

〈筆者＆出典〉小浜逸郎（こはま・いつお）一九四七年（昭和22）神奈川県生まれ。評論家。国士舘大学客員教授。横浜国立大学工学部卒業。家族論・学校論・思想・哲学など幅広く批評活動を展開。主著に『大人への条件』『なぜ人を殺してはいけないのか』『人はなぜ働かなくてはならないのか』など。本文は、『「責任」はだれにあるのか』（ＰＨＰ新書、二〇〇五年）より。

【読みのセオリー】

★因果関係を読み取ろう

　評論（論説文）には、ある現象を取り上げ、その現象がなぜ生じたのかという「因果関係」を論じるパターンが多い。因果関係は論説文において最も頻繁に使用される論理関係である。

　この文章では、「大人への人権侵害」と「大人の責任放棄」という二つのキーワードが因果関係で結びつき、問題文全体の論理を構成している。それを読み取ることが、問３・問５の設問を解く有力な手がかりとなる。

■読みのセオリー［実践］因果関係を読み取ろう

問３　論理の展開を追いながら、因果関係を読み取ろう。

　①「人権」概念の誤解

　　　　⇒

子どもには責任能力が十分にない。

　　　　↓

人権は［１　　　　　　　］。

（例）職業選択、結婚、言論、集会結社などの［２　　　］を子どもはもっていない。

　これらを認めてしまうと一種の［３　　　］になる。

　　　　↑

どうしてこんなことが起こるのか、その理由は？

〔解答〕　１制限される　２自由権　３人権侵害

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問１　空欄１〜３にあてはまる適語を次から一つずつ選べ。（９行目「そもそも」＝１、19行目「むしろ」＝２、21行目「どうして」＝３を空欄に）

　　ア　いわゆる　　イ　そもそも　　ウ　むしろ　　エ　なぜなら　　オ　どうして

　［答］１イ　　２ウ　　３オ

＊差し替え

問３　傍線部①にある「『人権』概念の誤解」とはどういうことか。本文中の語句を用いて三〇字以内で説明せよ。

　［答］責任能力のない子どもに対し、人権を無制限に保障すること。（28字）